

学校だより

札幌北陵

2012.3月号 vol.10

平成24年3月23日(金)／編集・発行 企画総務部

北海道札幌北陵高等学校

〒002-0857 札幌市北区屯田7条8丁目5-1

電話 011-772-3051 FAX 011-772-3052

<http://www.sapporohokuryou.hokkaido-c.ed.jp>

319名、巣立ちの春～

第38回 卒業証書授与式 / 3月1日(木)

3月1日(木)10:00より、本校第2体育館において第38回卒業証書授与式が行われました。男子187名、女子132名、計319名が学び舎を後にしました。

今回の卒業生は、高校の学区改正で札幌市内が「1学区」に変わって初めての卒業生となります。また、今年度は本校の創立40周年であり、その意味でも記念すべき卒業生となりました。

吹奏楽局の演奏とともに、卒業生が式場に入場。担任を先頭に、北陵での3年間で成長し、すっかり大人になった生徒が保護者席の間を通過し着席。中には目にハンカチを当てる保護者の姿も見られ



ました。各クラスの担任から生徒一人ひとりの名前が呼ばれ、8名の代表生徒がクラス全員分の証書を新村校長から受け取りました。また、3年間無遅刻・無欠席だった48名の生徒に、新村校長から皆勤賞が贈られました。

卒業生を代表して、前生徒会長の南穂乃香さんから答辞をいただきました。非常に印象的な内容で、保護者・教職員・在校生とも大変

感銘を受けました。

式が終わり、各教室では保護者を交えて最後のホームルームが行われ、担任から一人ひとりに卒業証書が手渡されました。どのクラスも最後に一人ひとりとずつつスピーチをしました。卒業生は皆、感無量の表情を浮かべていました。

ホームルーム解散後、部活動による卒業セレモニーも行われ、校舎内外のあちこちで先輩・後輩の輪が見られました。これも本校の伝統です。

この後、卒業生は大学進学などそれぞれの道へと進みます。北海道のリーダーとして社会貢献できる人材に育ってくれることを、学校としても期待しています。

★答辞 第38期卒業生代表 南 穂乃香

本日はこのような盛大な式を挙げていただき、卒業生を代表してお礼を申し上げます。卒業式を迎えるにあたって、今までたどってきた学校生活を振り返ってみることにしました。

初めて自分の人生を決める選択をした中学3年の冬。私たちは北陵高校に進学することを決め、慣れ親しんだ友人達と離れることになり、別れを経験しました。受験を乗り越え、不安を抱きながら見に行った合格発表。自分の受験番号を見つけた時の喜びはきっとこれからも忘れられないと思います。

合格を聞き、一緒に喜んでくれた家族を見て、これから頑張ろうと決意したと同時に、漠然と「上手くやっていけるのだろうか」と不安に襲われました。ワクワクする気持ちと不安が入り混じりながら迎えた、入学式。家族に背中を押され、北陵生として初めて校門をくぐりました。今まで徒歩で通っていた道も、自転車やバスで通うようになり、なんだか少し大人に近づいたような、そんな気持ちにもなりました。

新しい生活に慣れることに精一杯で、一日一日をがむしゃらに過ごしていた、そんな時に目にした北陵高校の先輩は、とても大きく輝いて見え、また自分もあんな先輩になりたいと憧れたものでした。

そして時は流れ、昨年先輩方を見送って最高学年になり、かつて新入生だった頃に憧れた三年生という立場になりました。三年生になっても、これといった実感はあまりなく、一年生の頃と同じように毎日に追われていました。部活を引退し、段々と受験を意識し始め、この頃になってようやく「自分は三年生なんだ」と実感したものでした。

行灯・クラパコ・展示全ての部門に精一杯力を注いだ北陵祭。夜遅くまで練習や準備を重ねたため、家族には心配をかけましたが、今では本当に良い思い出です。朝練や休みの日に集まって練習した体育大会。そんな私たちの原動力になっていたのは、やはり北陵高校での最後の行事だという事実だったと思います。

一通りの行事が終わると、気づけば受験は目の前に迫っていて、毎日放課後も教室には勉強している人が増え始めていました。必死に生活してきた三年間。今、振り返って思い出すのは、楽しかったこと、





みんなと笑い合ったことばかりです。今この場に立っていても、まだ卒業する実感が湧かないのは、明日からもまたいつもの道を通り、大好きな仲間と会い、見慣れた教室で授業を受ける、そんな毎日がこれからもずっと続くのではないかと心のどこかで思っているからだと思います。学校で過ごす一日は、あつという間なのに、家で過ごす一日は、こんなに長いのかと。そう考えると、最初は不安だった北陵高校での生活は、いつの間にか一番心地の良い時間になっていました。学校に来るのが当たり前で友達に会えるのが当たり前の毎日は、もう当たり前ではありません。

思い返せば、少し古い校舎、暖房が入ると急にうるさく鳴るストーブ、すき間から雪が入る第一体育館の廊下。使っている間は何も感じなかったけれど、北陵で過ごした三年間を物語っていると思うと、全てがとても愛おしく感じます。毎日北陵の門をくぐることで一日が始まり、学校では時には厳しく、時には優しく指導して下さった先生方がいつも暖かく見守ってくれました。楽しい時には一緒に笑い、辛い時には一緒に泣いてくれた、かけがえのない仲間を支えられ、たくさんの時間を共に過ごすことが出来、本当に良かったと心から感じます。そして家で暖かく迎えてくれる家族の存在は、何にも増して大きいものでした。どんな辛いことがあっても頑張ろうと思えたのは、いつも変わらず迎えてくれる家族がいたからだと思います。私たちは多くの方に支えられ、周りの方に見守られて生きてきたのだと、強く感じました。だからこそ、人との出会いは大切にしなければならないのだと思います。これから私たちは自分達の意志で全てを決め進んでいくために、どんな辛いことがあっても足元をしっかりと見つめ、力強く生きていこうと思います。在校生のみなさん、未来の自分に希望を持って、一日一日を大切に過ごして下さい。たくさんの選択をする中で迷うこともあるでしょう。どんな時も決めるのは自分です。自分の信じた道を真つぐ進んでほしいと思います。私たちはいつでも応援しています。

最後になりますが、たくさんの思い出と友人に囲まれて卒業する私たちを見守り続けてくれた家族と先生方、共に支え合ってきた友人と後輩に感謝の言葉を述べ、答辞といたします。

2学年でスピーチコンテストが行われました

3月2日(金)の7校時に、2学年のスピーチコンテスト決勝が第2体育館で行われました。あらかじめ各クラス予選で選出した8名の代表が、ステージ上で自分の意見を主張しました。

「主題にあった内容か」

「自分なりの考えを持っているか」「人に聞かせる姿勢が見られるか」などの観点で審査しました。最優秀賞に選ばれた2年7組の橋爪君は「ハイブリッドカーは本当にエコなのか?」という観点で、最近市場を賑わせているハイブリッドカーに対して様々な疑問を投げかけてくれました。視点の斬新さと面白い口調が印象的で、生徒や教職員を魅了してくれました。最後に國井副校長より、社会生活におけるコミュニケーション能力の重要性について、お話がありました。



卒業生が下足ロッカー清掃をしました

3月8日(木)に、卒業したばかりの第38期生有志が多数集まり、生徒玄関の下足ロッカーを清掃しました。昨年度も実施しましたが、予想以上に多くの卒業生が集まり、前半・後半に区切った清掃活動となりました。



また、この日は国公立大学後期入試を受験する生徒が卒業後も学校へ来て勉強していましたが、それらの生徒に励ましの声をかけるなどの光景も見られました。

除雪等のボランティア活動を行いました

3月10日(土)に、手稲区の「Donald・MacDonald・ハウス・さっぽろ」にお邪魔させていただき、除雪、窓ふき、館内清掃を行いました。

野球部を中心に60名の生徒が参加。春の日差しの中、汗を流しながらの作業となりました。Donald・MacDonald・ハウス・さっぽろと本校との交流は3年目となります。3月の除雪・清掃ボランティアと、7月の北陵祭におけるフリーマーケット収益の募金という大きな2つの活動を行っており、今回それらに対して感謝状をいただきました。今後もこのような活動を通じ、学校として地域・社会貢献をしていきたいと考えております。



<生徒の声～2年5組 田中智樹>

3度目となるマクドナルドハウスのボランティア活動ですが、今回も多くの生徒が参加していました。その内の一人として、僕も活動に参加しましたが、僕たちの活動を喜んでくれる人達を見てすごくやりがいを感じました。作業は楽しくやることができたし、自分達の活動が誰かのためになると思うと、とてもうれしくなりました。また、作業を終え、感謝状をいただいた時は、ものすごく達成感を感じました。こういう機会を与えてくれたマクドナルドハウスの関係者、先生方に感謝します。まだまだ自分達の力が役に立つ場があると思うし、北陵高校はボランティア活動に力を入れている学校だと思うので、様々な活動に参加し、ボランティア活動を広めていきたいです。

1・2学年行事(球技大会)が行われました

3月12日(月)・16日(金)に、それぞれ1学年・2学年の球技大会が行われました。本校は4月～9月の前期に学校行事が集中しており、10月～3月の後期は閑散期となります。これを補うことを目的としてこの行事を行っており、生徒にとっては久々の息抜きとなりました。



■■編集後記■■

1年間「札幌北陵 学校だより」をお読みいただき、ありがとうございました。次年度も4月より発行いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。(企画総務部 スタッフ一同)